

AWSインフラ構築スターターパック

手軽かつ確実にAWSのクラウド環境を手に入れませんか？

2023年10月版

ディーアイエスサービス&ソリューション株式会社

- スタートパックは、お客様のご要望の多い機能やサービスを随時追加していきます。

2021年9月8日	・サービスリリース
2021年12月24日	・死活監視と通知オプションにCPU、メモリ、HDDの使用率監視機能を追加
2022年5月30日	・Amazon RDS Microsoft SQL Serverの構築を追加
2022年7月4日	・スタートトレーニングにRDSを追加、自習用コンテンツに変更
2022年9月1日	・ALB(Application Load Balancing)の構築とURL監視オプションを追加
2022年11月24日	・Amazon RDS for Oracleの構築を追加
2022年12月15日	・Amazon RDS for MySQL と PostgreSQLの構築を追加
2023年4月18日	・EC2自動起動停止オプションとCloudFrontオプションを追加
2023年6月12日	・チャット通知オプションとWAF PoCオプションを追加
2023年7月26日	・Patch Managerオプションを追加
2023年8月22日	・カスタマーゲートウェイサービスオプションと休日日中対応オプションを追加
2023年10月18日	・EC2自動起動停止オプションの対象サービスをMaintenance Windowsに変更

スターターパックとは？

- これからAWSによるクラウド化を始める方向けに基本となるインフラ環境を構築するサービスです。
- AWS専門のチームが設計フェーズからサポートいたします。
- ベースとなる基本セットにオプションのメニューを追加頂くことで柔軟なカスタマイズが可能です。



**AWSのクラウドを利用したいが、構築経験が無い
ためAWSのインフラ環境を作成してほしい**

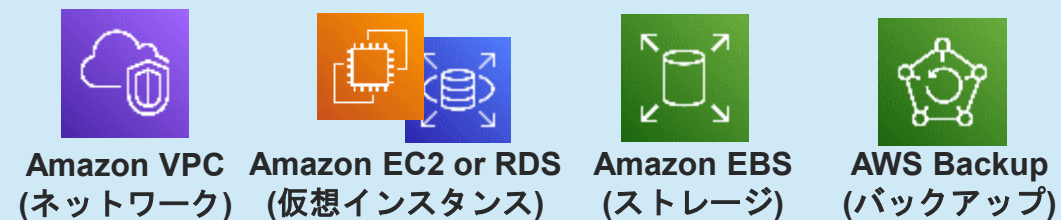


**専門家に相談しながらベストプラクティスに基づいた
AWSのインフラ環境を作り上げたい**



**自社サービスの展開を検討しており、
AWS環境を利用したサービスを作成したい**

基本セット



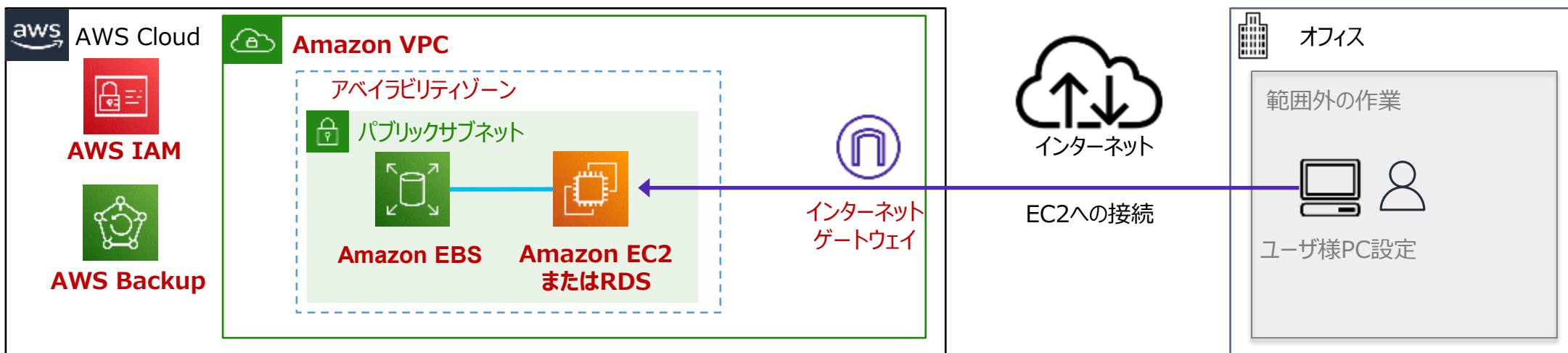
オプション



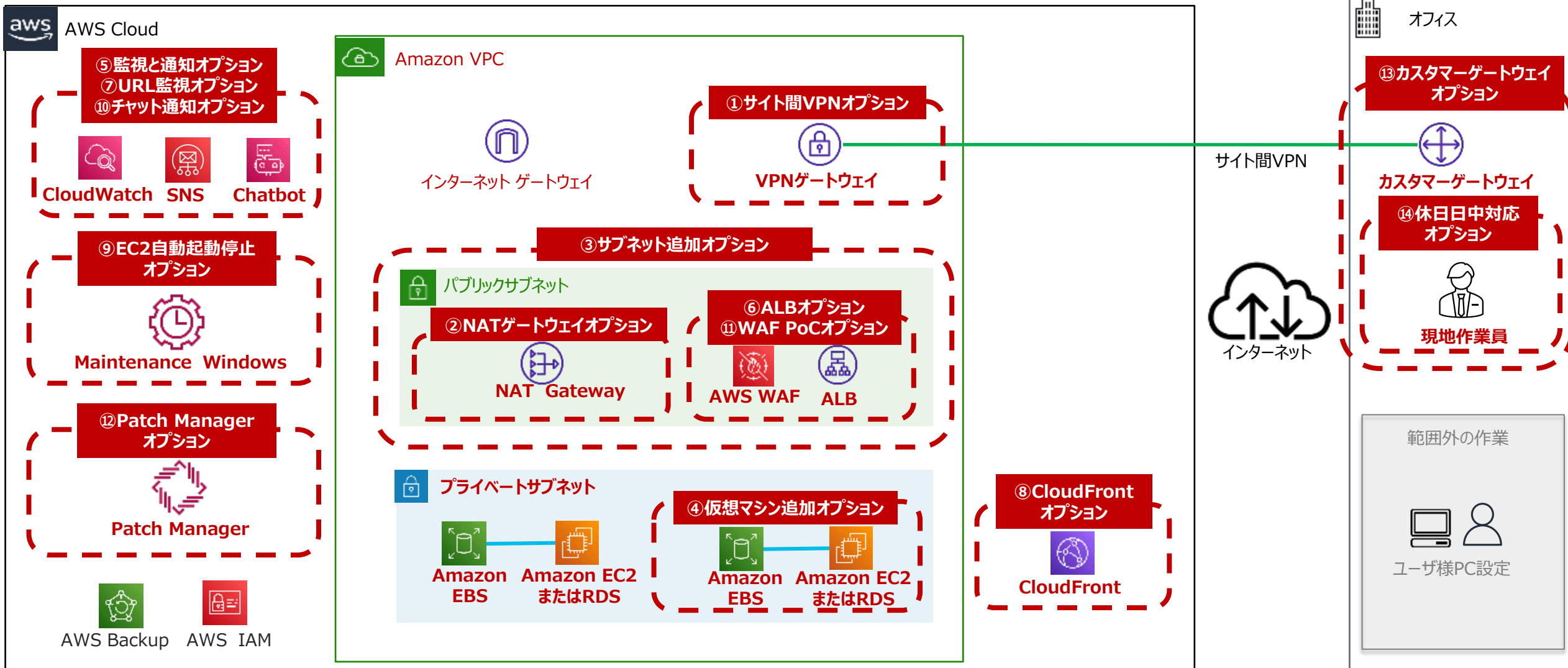
基本セットに含まれる構築サービスについて

- アカウント作成、仮想ネットワーク、仮想インスタンス、仮想ストレージ、バックアップのサービスが基本セットに含まれます。
- 基本セットに含まれる仮想インスタンスはEC2またはRDSの1台ですが、オプションで追加することも可能です。

構成イメージ(EC2作成)



メニュー	対象サービス	主な役割	設定内容
基本セット ※対象サービスを全て含みます。	AWS IAM	アカウント作成	管理用アカウントの作成
	Amazon VPC	仮想ネットワーク	パブリックまたはプライベートサブネット(1つ)、インターネットゲートウェイ
	Amazon EC2またはRDS	仮想インスタンス	Amazon EC2またはRDSの構築(1台)、セキュリティグループ設定
	Amazon EBS	仮想ストレージ	ボリューム(汎用SSD gp2)の作成、EC2へのアタッチ
	AWS Backup	バックアップ	Amazon EC2またはRDSに対するバックアップのスケジュール設定



※各オプションの詳細については次ページをご確認ください。

価格と購入数について 1

※メニュー範囲外の構築に関しましては、個別にお見積りさせていただきますので、別途ご相談ください。

メニュー	対象サービス	主な役割	設定内容	標準単価 (税別)	最大 購入数
基本セット ※必須	AWS IAM	アカウント作成	管理用アカウントの作成	個別相談	1式まで
	Amazon VPC	仮想ネットワーク	パブリックまたはプライベートサブネット(1つ)、インターネットゲートウェイ		
	Amazon EC2またはRDS	仮想インスタンス	Amazon EC2またはRDSの起動(1台)、セキュリティグループ設定		
	Amazon EBS	仮想ストレージ	ボリューム(汎用SSD gp2)の作成、EC2へのアタッチ		
	AWS Backup	バックアップ	仮想マシンに対するバックアップのスケジュール設定		
	設計支援	構築前のAWS設計支援	ヒアリングシートに基づくお打ち合わせ(Web会議3回まで)		
	環境引継ぎ会	構築後のAWS環境説明	構築したAWS環境についてWeb会議でご説明		
	メールサポート	構築後のメールサポート	2週間のメールサポート(平日9時-17時、ベストエフォート対応)		
	ドキュメント	-	詳細設計書、試験計画書兼報告書		
①サイト間VPNオプション	VPNゲートウェイ	サイト間VPN(AWS側)	AWS側のVPN接続設定(オフィス側の設定は含まない) ※1式で5拠点まで		2式まで
②NATゲートウェイオプション	NATゲートウェイ	NAT	パブリックサブネットに1つのNATゲートウェイを追加		2式まで
③サブネット追加オプション	Amazon VPC追加	仮想ネットワークの拡張	パブリックまたはプライベートサブネットを1つ追加		3式まで
④仮想マシン追加オプション	Amazon EC2またはRDS	仮想インスタンスの追加	Amazon EC2またはRDSを追加 ※EBSとBackup設定含む		3式まで
⑤監視と通知オプション	CloudWatch & SNS	運用管理	Amazon EC2とRDSに対する監視と管理者へのメール通知設定		1式まで
⑥ALBオプション	ALB、ACM、CloudWatch、SNS	ロードバランサー	ロードバランサーの追加とACMの証明書適用、ヘルスチェックによる異常検知時のメール通知		1式まで
⑦URL監視オプション	CloudWatch、SNS	URL(Webサイト)監視	URL(Webサイト)監視と異常検知時のメール通知 ※ログはS3に保存		1式まで
⑧CloudFrontオプション	CloudFront、ACM	Webサイトのキャッシング	Webサイトのキャッシングと証明書適用(ACM) ※⑥ALBオプション購入必須		1式まで
⑨EC2自動起動停止オプション	Maintenance Windows	EC2の自動起動停止	EC2への起動と停止を任意のスケジュールで実行 ※スケジュールの数分ご購入ください。		4式まで
⑩チャット通知オプション	Chatbot	運用管理(チャット)	MS Teams/slackへの通知(チャットサービス側の設定は含まず) ※⑤監視と通知オプションが必須		1式まで
⑪WAF PoCオプション	AWS WAF	アプリケーションFW	基本セキュリティルールの適用と通信のカウント ※⑥ALBオプション必須		1式まで
⑫Patch Managerオプション	Patch Manager	パッチ適用の自動化	パッチポリシーの作成(1つ)とEC2への適用		1式まで

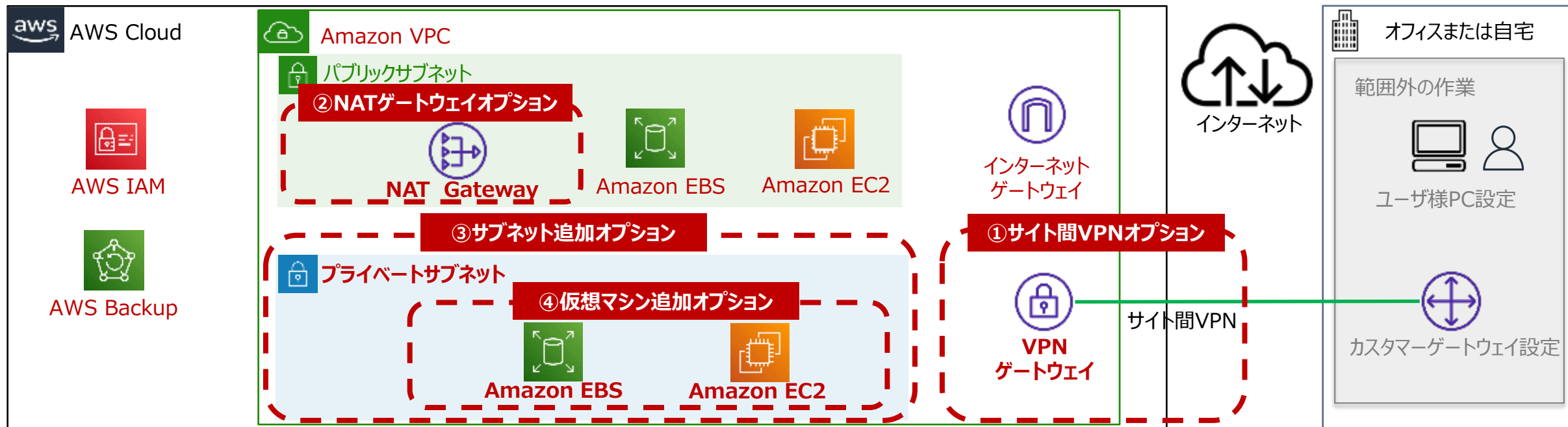
価格と購入数について 2

※メニュー範囲外の構築に関しましては、個別にお見積りさせていただきますので、別途ご相談ください。

メニュー	対象サービス	主な役割	設定内容	標準単価 (税別)	最大 購入数
⑬カスタマーゲートウェイオプション	カスタマーゲートウェイ	サイト間VPN(オフィス側)	新規ルータに対するAWSへのVPNピア設定、インターネット設定 (WAN側: 1回線)、DHCPサーバーの設定、LAN側アドレス設定、SE現地対応1名 (平日9:00 - 17:00)、機器1台の平置き ※作業の詳細は「サービスに関する注意事項」をご確認ください。 ※①サイト間VPNオプションが必須	個別相談	1式まで (複数拠点 は個別ご相談ください)
⑭休日日中対応オプション	カスタマーゲートウェイ	サイト間VPN(オフィス側)	休日日中帯での現地SE対応 (休日日中9:00~17:00) ※作業の詳細は「サービスに関する注意事項」をご確認ください。 ※③カスタマーゲートウェイオプションが必須		1式まで

メニュー構成サンプル

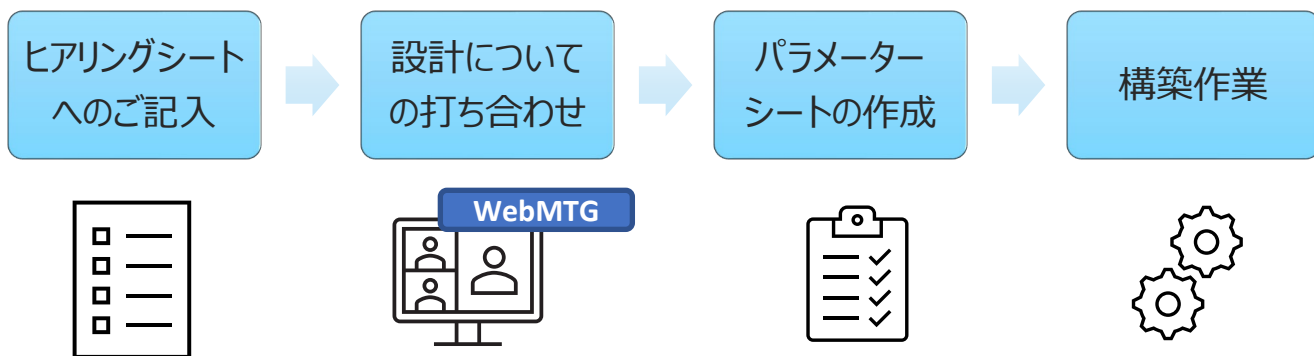
- プライベートサブネットのEC2にもサイト間VPN経由でアクセスするケース（業務アプリやイントラのクラウド移行など）



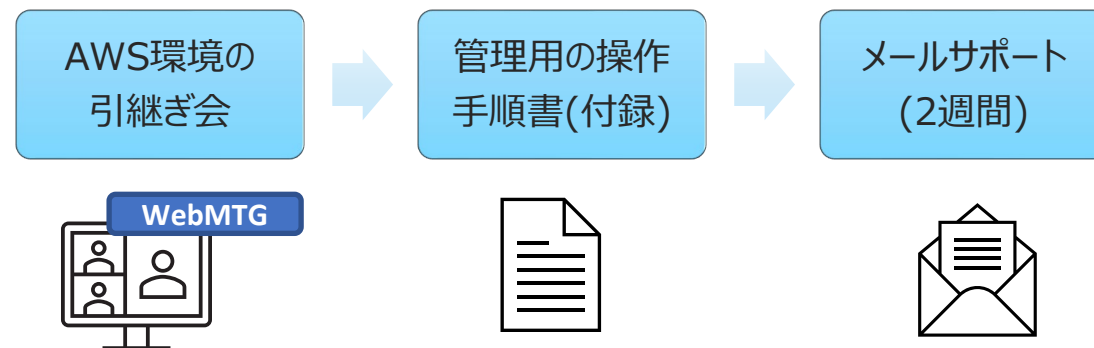
メニュー	標準単価(税別)	数量
基本セット(AWS IAM、Amazon VPC、Amazon EC2またはRDS、Amazon EBS、AWS Backup)	個別相談	1
①サイト間VPNオプション		1
②NATゲートウェイオプション		1
③サブネット追加オプション		1
④仮想マシン追加オプション		1

- AWSに馴染みの薄い方にも安心して導入頂けるように、お打ち合わせをベースに進めさせていただきます。
- 設計についてのお打ち合わせの前に、弊社指定のヒアリングシートにご記入頂く必要があります。
- AWS環境の引継ぎ会では、構築環境の質疑応答や納品物のご紹介を致します。(1時間程度)
- メールサポートでは、構築環境に関するご質問をAWS環境の引継ぎ会后2週間対応致します。(平日9時 - 17時)

設計・構築フェーズ

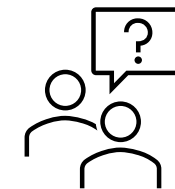


納品フェーズ



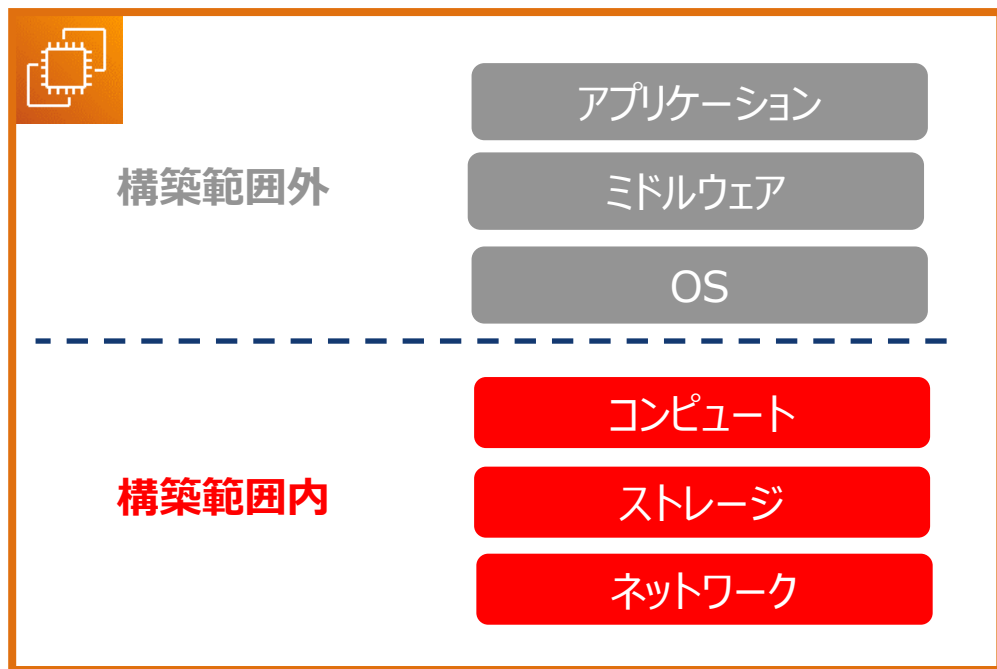
AWSサポートセンター(技術サポート)のご利用で、構築後もずっと安心です！

AWSサポートセンターでは、電話、チャット、Eメールを使って、クラウドサポートエンジニアに24時間、年中無休で問い合わせることができます。
※「ビジネス」以上のサポートプランをご契約ください！

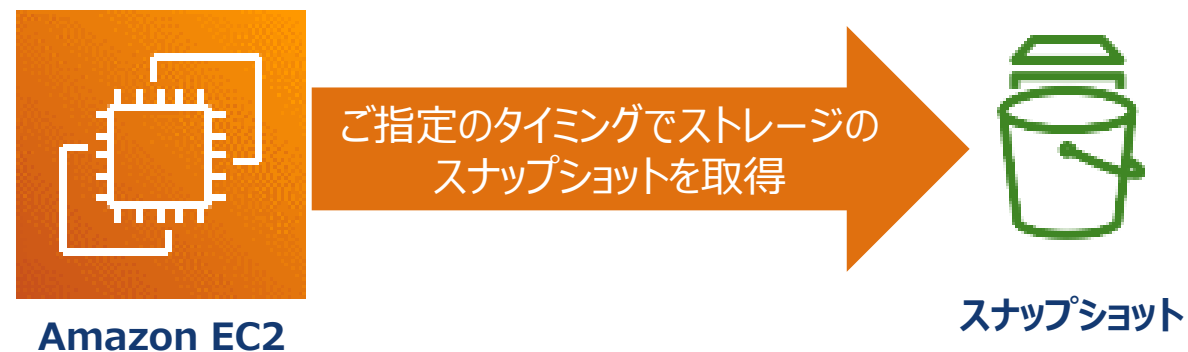


- 構築範囲は、ネットワーク、ストレージ、コンピュータのIaaS範囲です。
- OS、ミドルウェア、アプリケーションの設定は範囲外です。
- お客様のご要望に応じてAWS BackupにてEC2のストレージのスナップショットを取得します。(基本セットメニューに含む)

EC2の設定範囲



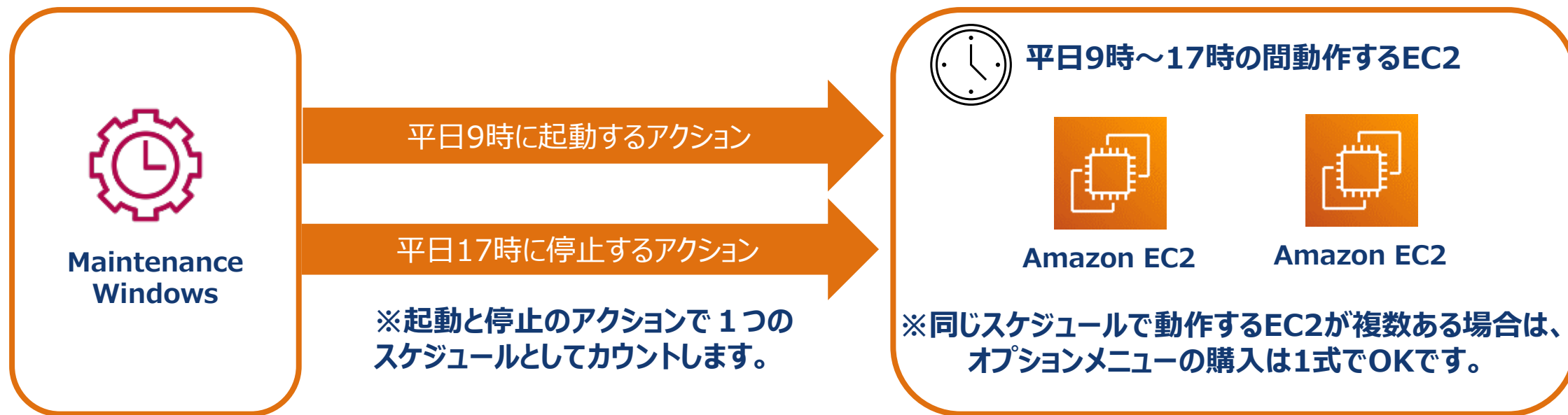
仮想サーバのバックアップ



EC2の自動起動停止オプションについて

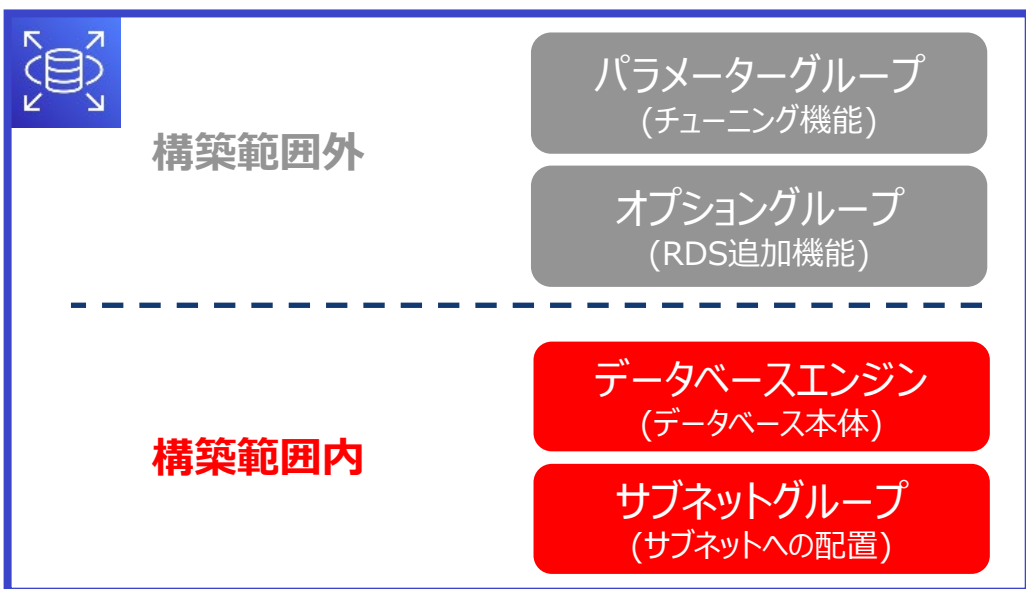
- EC2の自動起動停止オプションとは、Maintenance Windowsを利用してEC2の起動および停止時間を指定するオプションのメニューです。
- 例えば平日の9時から17時までの間のみEC2を自動的に起動させることが可能です。※祝日や年末年始など考慮したスケジュールは対応不可です。その際は手動で停止と起動を実行ください。
- スケジュール毎にメニューを購入ください。（最大購入数は4式）

Maintenance Windowsを利用した自動起動停止の仕組みとメニューの購入数について

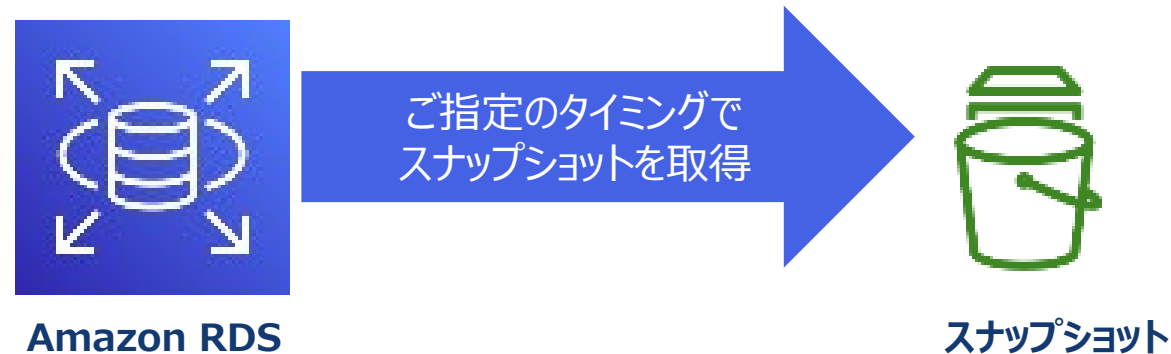


- 構築対象のデータベースは Microsoft SQL Server、Oracle、MySQL、PostgreSQLです。
- 弊社オリジナルの「設定シート」へご記載頂いた内容に沿って設定します。(DBの設計に関するご相談は対象外)
- 構築範囲は、データベースエンジンとサブネットグループです。パラメーター/オプショングループはデフォルト設定を利用します。
- AWS Backupサービスを利用してRDSのスナップショットを取得します。

Amazon RDSの設定範囲



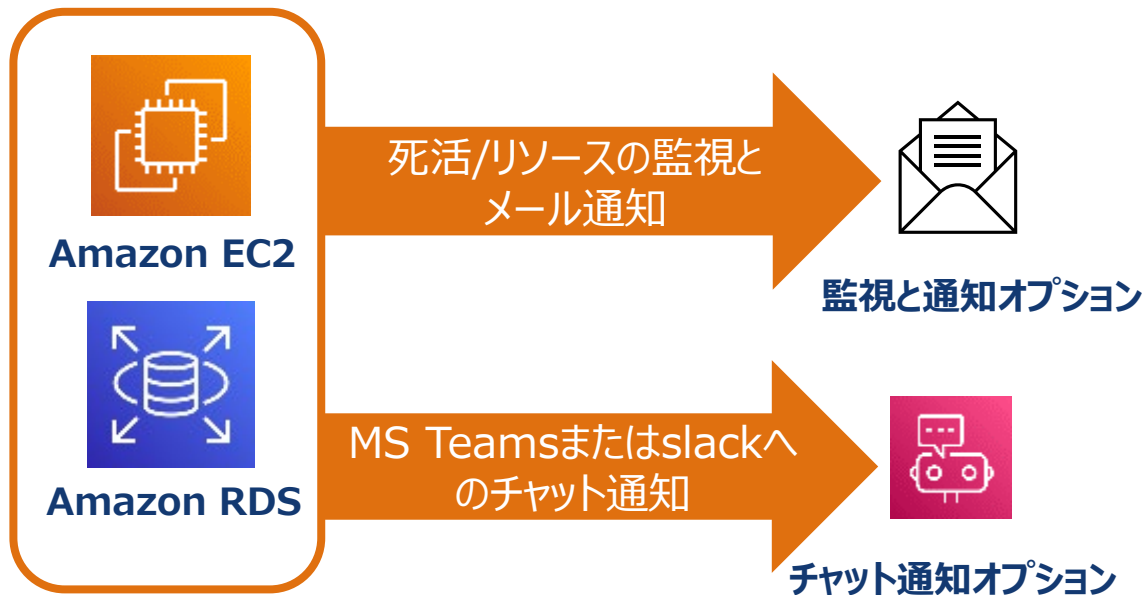
RDSのバックアップとイベント監視



- パラメーターグループについて https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/AmazonRDS/latest/UserGuide/USER_WorkingWithParamGroups.html
- オプショングループについて https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/AmazonRDS/latest/UserGuide/USER_WorkingWithOptionGroups.html

- オプションメニューの「監視と通知オプション」では、死活とリソース(CPU、メモリ、HDD)を監視し、異常の際は管理者様へメールにて通知します。
- 「監視と通知オプション」に「チャット通知オプション」を追加するとご利用中のMS TeamsまたはSlackへのチャットによる通知設定を実施します。※RDSの死活監視は、チャット通知をサポートしませんのでご注意ください。
- MS Teamsまたはslackのチャットサービス側の設定は範囲外です。AWS側のチャットボットの設定を実施します。

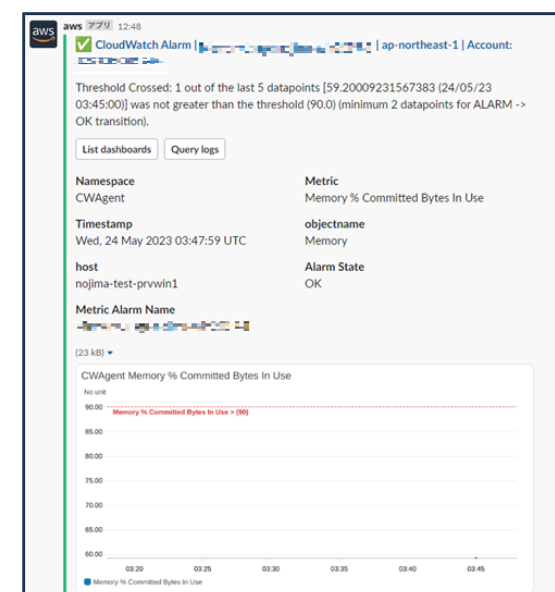
仮想サーバの監視と通知



チャット通知サンプル



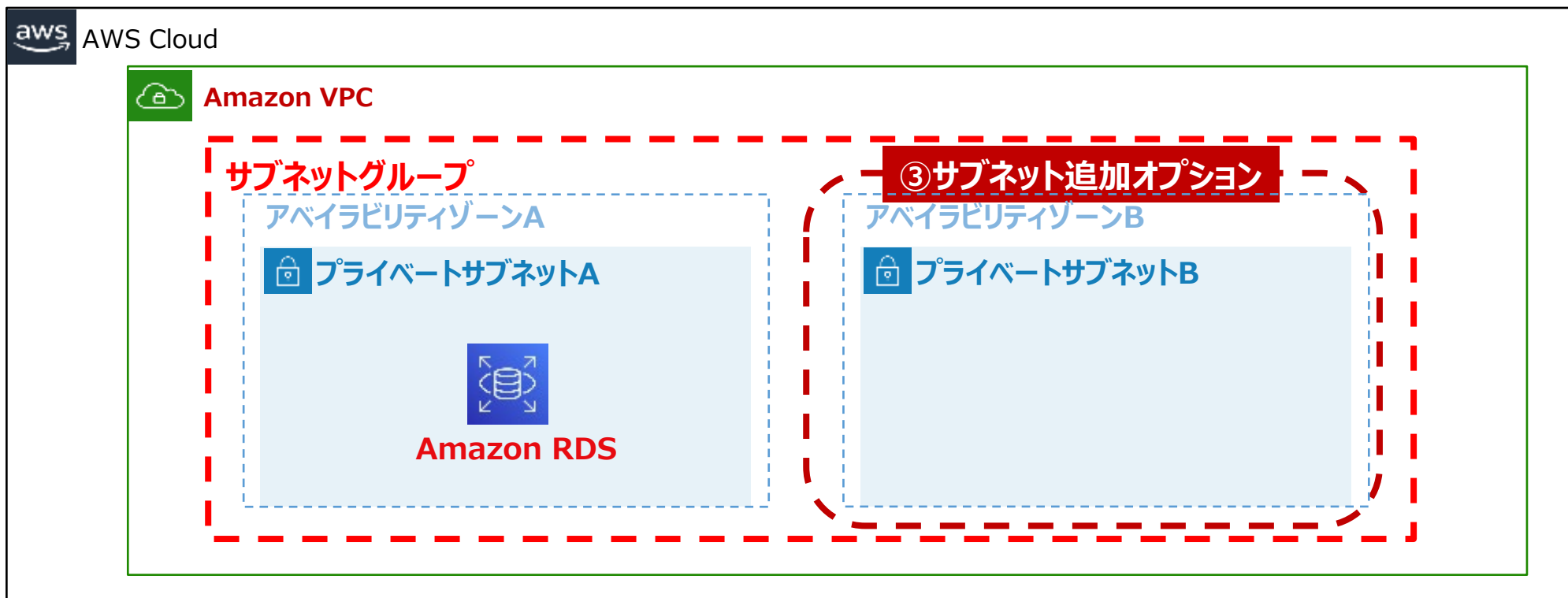
MS Teams通知イメージ



slack通知イメージ

- RDSは2つ以上のサブネットを含むサブネットグループに配置する必要があります。
※シングルAZ構成の場合も含む
- サブネットを追加する場合は、「③サブネット追加オプション」をご購入頂く必要があります。

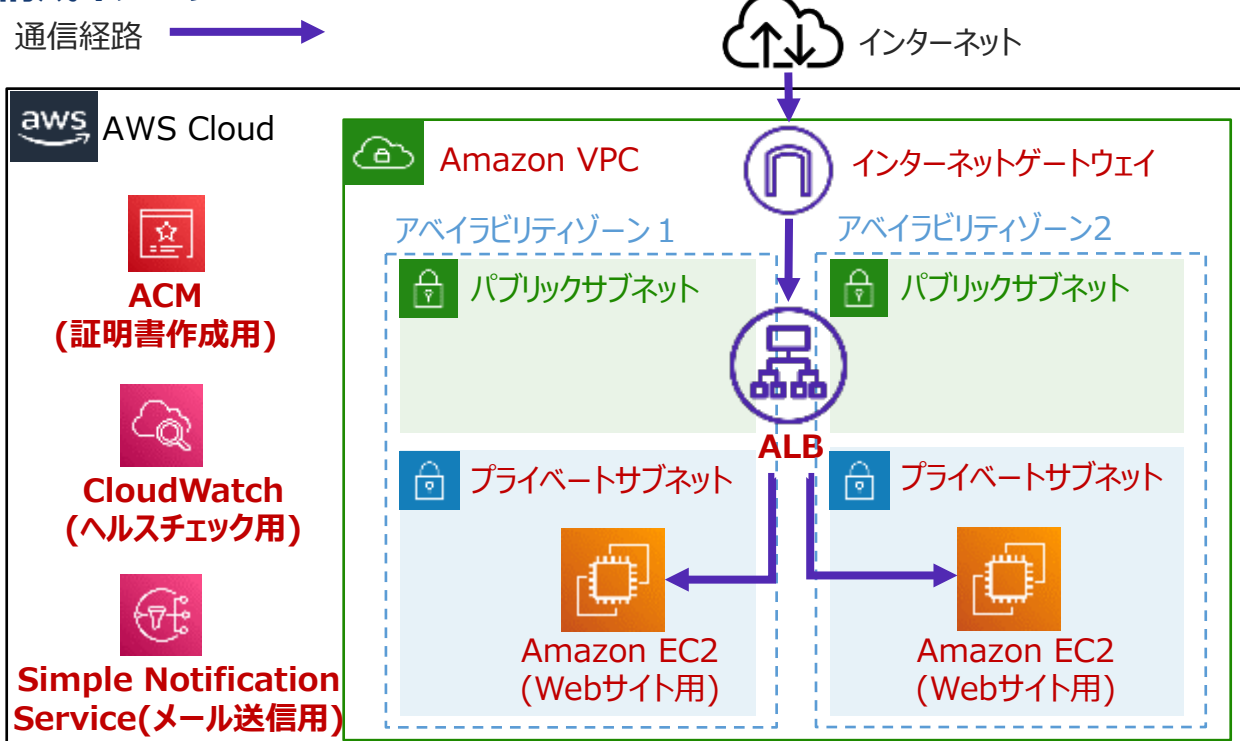
構成イメージ



ALB (Application Load Balancing)の設定について

- ALBを用いて2つのアベイラビリティゾーンにまたがるWEBサイトを構成することにより、単一障害点の排除とアクセスの負荷分散を実現します。またACMで発行したSSL/TLS 証明書をALBに適用することでHTTPSの通信を提供します。
- Webサイトに対してヘルスチェックを設定するため、構築期間中にお客様にてWebサイトを構築頂く必要がございます。メニューにて対応可能なALBの振り分けルールは「負荷分散」、Webサイト数は「1サイト」とさせていただきます。
※Webサイトの動作確認および負荷分散試験は含まれません。
- SSL/TLS証明書発行に際し、お客様によるDNSへの設定追加が必要になります。※設定値をご連絡致します。

構成イメージ



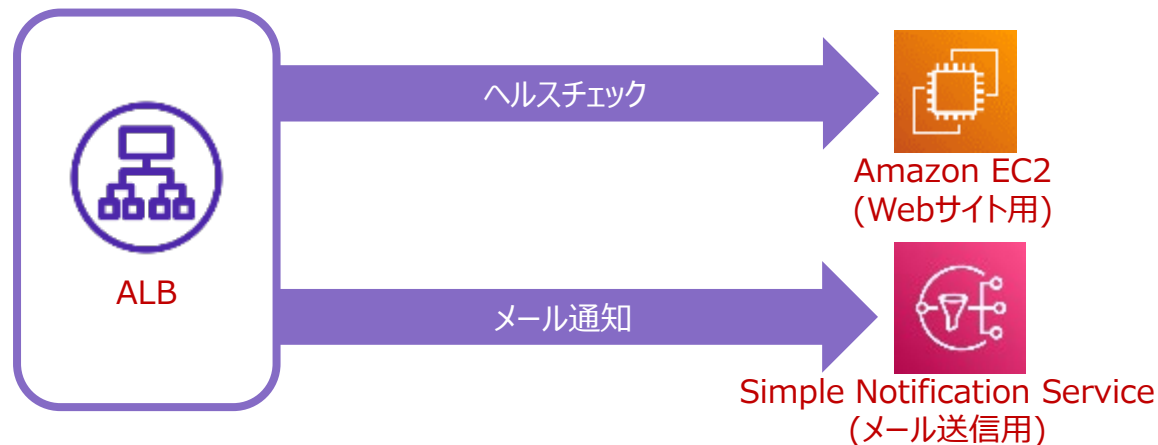
構築フローイメージ



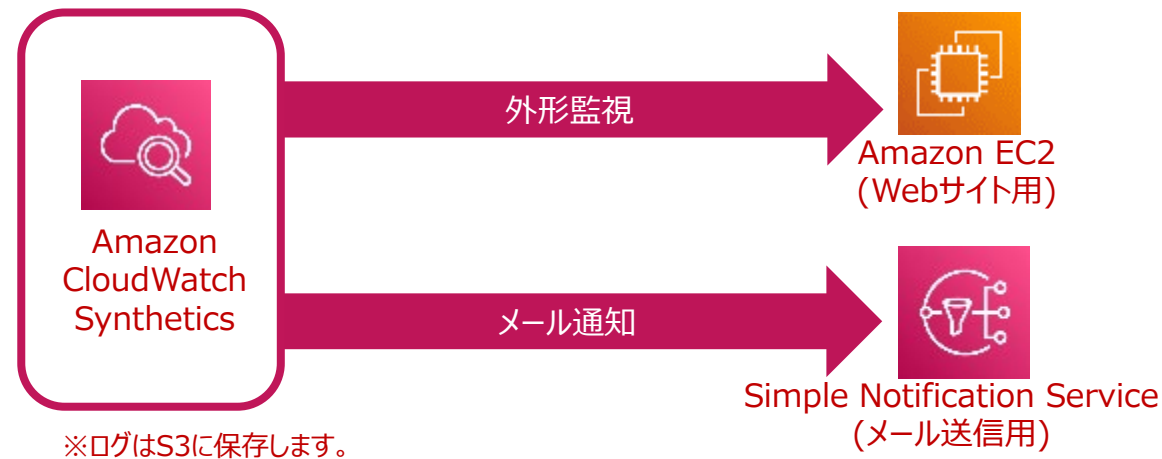
ALBのヘルスチェックとURL監視サービスについて

- ヘルスチェックとは、ALBから登録されたターゲット(Webサイト)のステータスをテストするため、定期的にリクエストを送信する機能です。異常時には管理者様へメール通知を実施します。
- URL監視(外形監視※)はAmazon CloudWatch SyntheticsサービスがAWS Lambdaと連携し、VPCの外部からクライアントのアクションをシミュレートしwebサーバの可用性をモニタリングする機能です。
※URL監視の設定はオプションの追加メニューです。

ヘルスチェックサービスイメージ

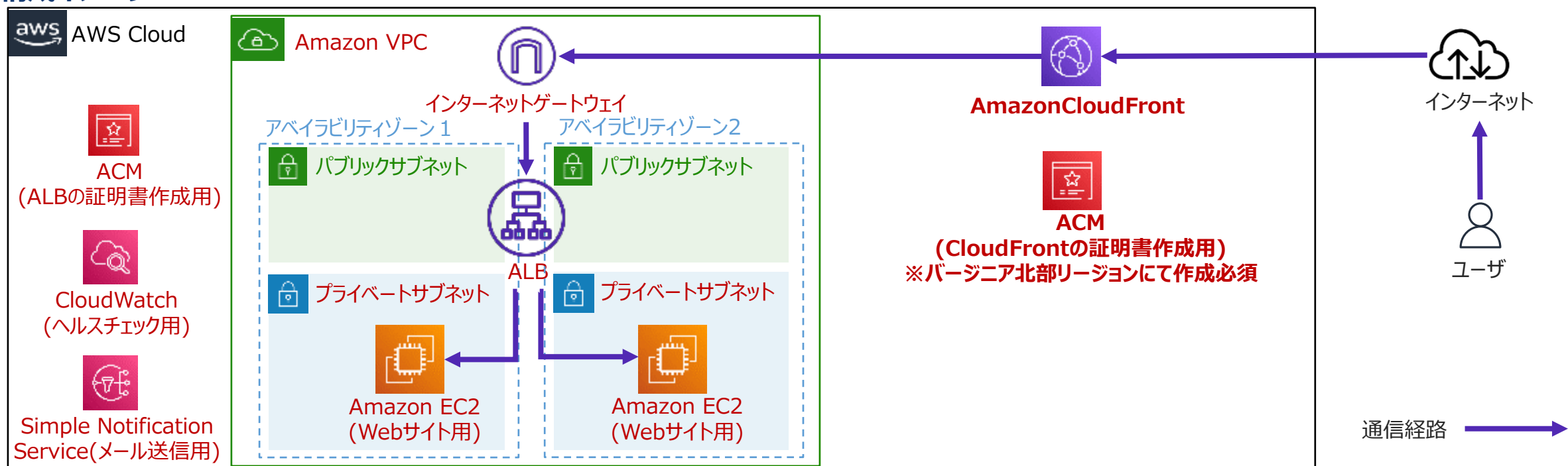


URL監視(外形監視)サービスイメージ ※オプションメニュー



- CloudFrontキャッシュがWEBサーバーへの直接的なリクエストの数を減らすことでWEBサーバーの負荷を軽減することが可能です。またユーザに近いエッジロケーションがリクエストに回答することでレイテンシーの減少が期待できます。
- CloudFrontオプションは、ALBオプションと連携する為、ALBオプションの同時購入が必要です。
- メニューにて対応可能なALBへの通信プロトコルはhttpsのみです(httpのみの利用はサポートしません)。またALBオプション同様にALB振り分けルールは「負荷分散」、Webサイト数は「1サイト」とさせていただきます。
※Webサイトの動作確認および負荷分散試験は含まれません。

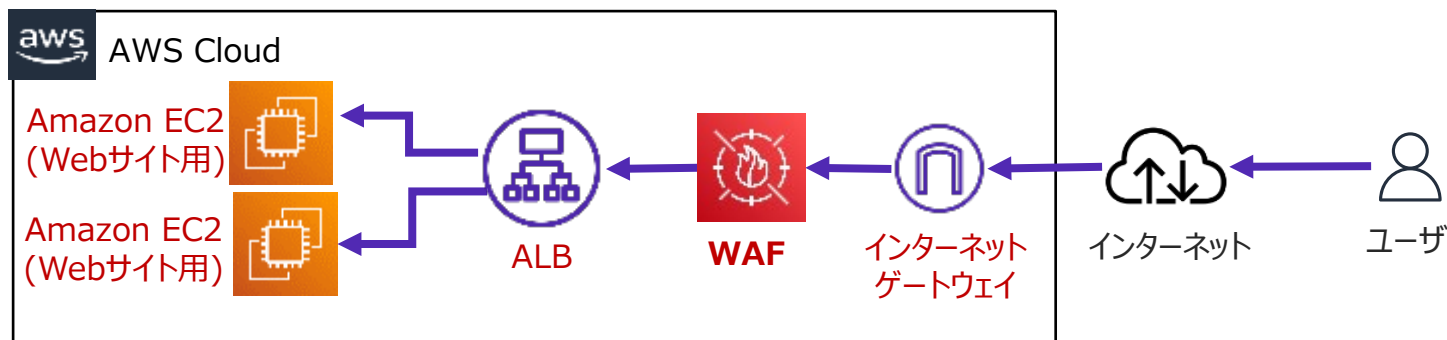
構成イメージ



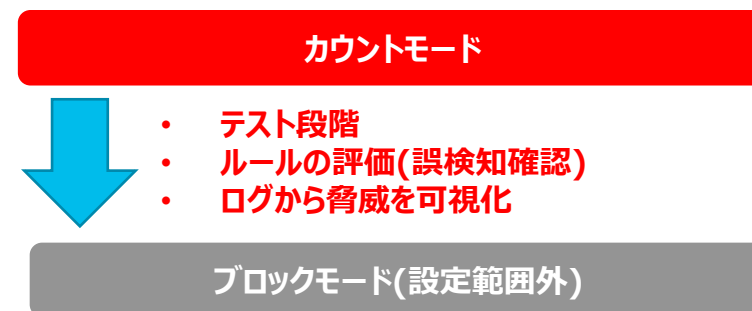
WAF PoC オプションの設定について

- ALBもしくはCloudFrontに対してWAFの基本的なルールを適用し、ルールに該当した通信をカウントする環境を設定します。カウントされたログを確認することでルールに基づく検知状況の可視化が可能です。※通信のブロックは行われません。
- カウントモードからブロックモードへの変更やルールの追加や削除はお客様にて実施頂く必要がございます。
- ルールはAWSが提供する「ベースラインルールグループ」と「IPレピュテーションルールグループ」をWEBサイト全体に適用します。

構成イメージ(ALBに適用)



カウントモードとブロックモード



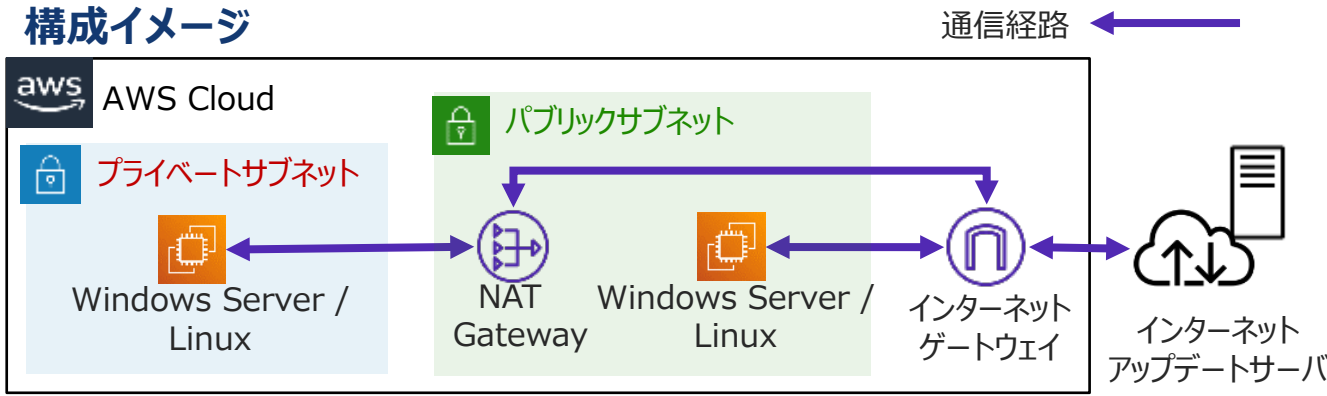
適用ルール ※ルールの詳細はこちらご確認ください。 https://pages.awscloud.com/rs/112-TZM-766/images/202203_AWS_Black_Belt_AWS_Managed_Rules_for_AWS_WAF.pdf

分類	ルールセット	概要
ベースライン ルールグループ	Core rule set (CRS)	OWASP Top 10 の脅威に基づく、一般的なウェブアプリケーションに適用可能なルール
	Admin Protection	公開されている管理ページへの外部アクセスに基づくルール
	Known bad inputs	無効であることがわかっており、脆弱性の悪用または探索に関連するリクエストパターンに基づくルール
IPレピュテーション ルールグループ	Amazon IP reputation list	ボットやその他の脅威に関連づけられている IP アドレスをブロックする、Amazon 内部の脅威インテリジェンスに基づくルール
	Anonymous IP list	VPN、プロキシ、Tor ノード、ホスティングプロバイダーなどのビューワーIDの難読化を許可するサービスからのリクエストに基づくルール

Patch Managerオプションの設定について

- EC2(Windows、Linux)にパッチを適用するプロセスを自動化します。
- AWSがサポートする事前定義された下記のパッチベースラインにてパッチポリシーを1つ設定します。
- パッチオペレーションは、パッチ適用状況(コンプライアンスへの準拠)を確認し、未適用パッチをインストールする、「スキャンとインストール」を設定します。

構成イメージ



ダッシュボード

パッチ適用状況が確認できます。



パッチベースライン ※Windowsの場合は、いずれか1つを選択頂きます。

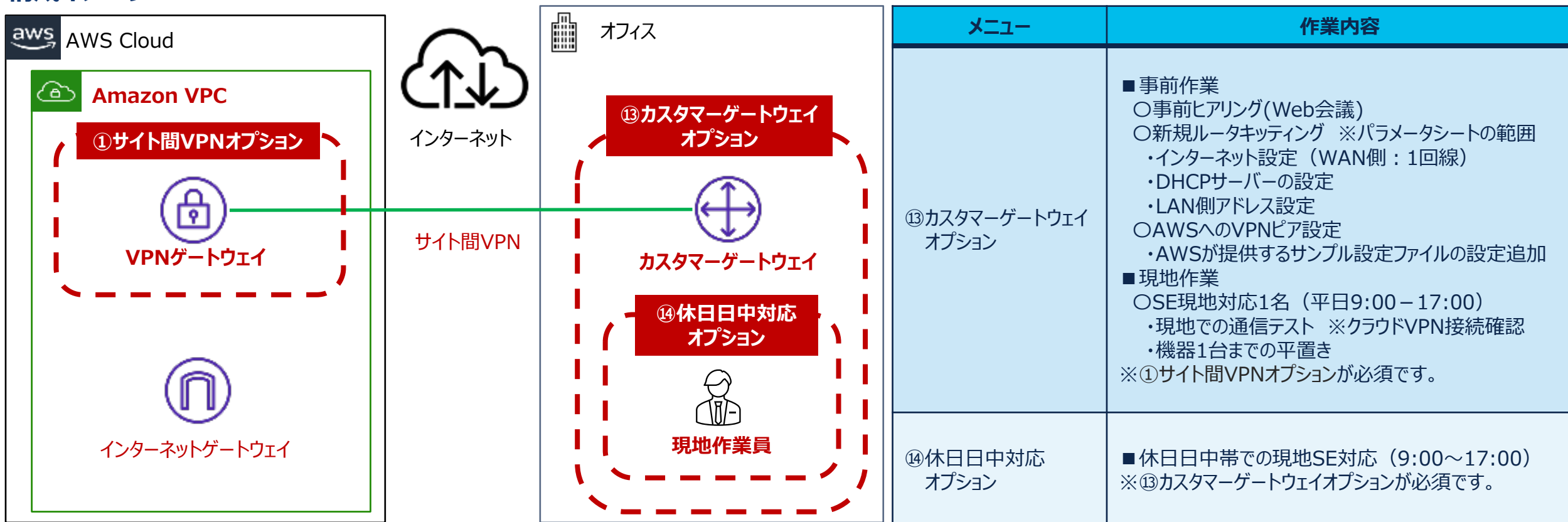
OS	ベースライン名	概要
Windows Server	AWS-DefaultPatchBaseline	分類が「CriticalUpdates」または「SecurityUpdates」で、MSRC 重要度が「非常事態」または「重要」のすべてのWindows Server オペレーティングシステムパッチを承認します。(パッチはリリース/更新されてから7日後に自動承認)
	AWS-WindowsPredefinedPatchBaseline-OS-Applications	「AWS-DefaultPatchBaseline」に加え、Microsoft がリリースしたアプリケーションについては、すべてのパッチを承認します。OS とアプリケーションのパッチのどちらも、リリース/更新から7日後に自動承認されます。
Linux	※OSに応じて選択	分類が「セキュリティ」で、重要度レベルが「非常事態」または「重要」のすべてのオペレーティングシステムパッチを承認します。また、分類が「Bugfix」(バグ修正) のすべてのパッチを承認します。パッチはリリースから 7 日後に自動承認されます。

※詳細はこちらご確認ください。https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/systems-manager/latest/userguide/patch-manager-predefined-and-custom-patch-baselines.html#patch-manager-baselines-pre-defined

カスタマーゲートウェイサービスオプションについて

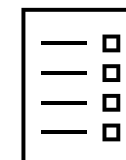
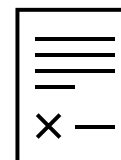
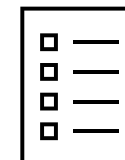
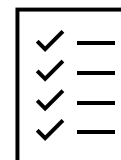
- オフィス側のカスタマーゲートウェイ(ルーター)とAWS Cloud側のVPNゲートウェイ間のVPNを構築するサービスです。
- 新規ルータの事前設定を行い、現地設置とAWSへの通信確認までを実施します。
- ※対象ルータや現地作業の条件や詳細は「サービスに関する注意事項」をご確認ください。
- 「休日日中対応オプション」の追加により休日日中帯(9:00～17:00)の現地SE対応が可能です。

構成イメージ



● 納品ドキュメント

- 詳細設計書 (パラメータシートのとりまとめ)
 - 試験計画書兼報告書
- ※弊社フォーマットでのデータ提供となります。



● 操作手順書(付録)

- AWSマネジメントコンソールからの各種操作手順書

※上記の操作手順書を付録(無償)としてお渡し致します。

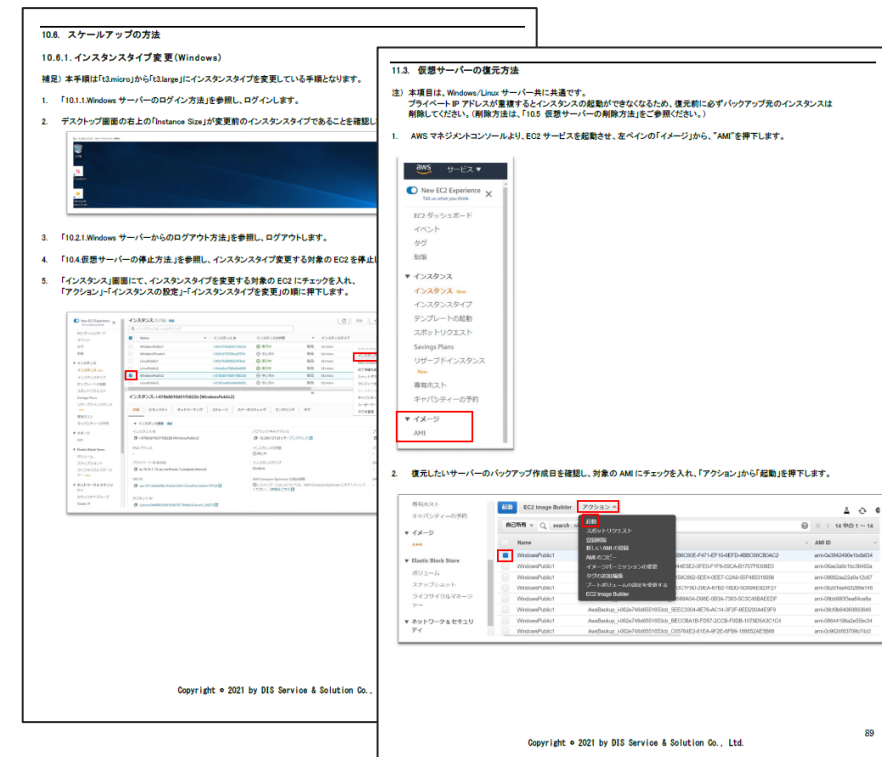
弊社のAWS環境をベースとした操作手順書となります為、お客様のAWS画面とは異なります。

個別のカスタマイズは実施することはできません。

- 構築後のユーザ様の運用をサポートする**全250ページを超えるオリジナルの操作手順書**をご提供いたします。
- AWSマネジメントコンソールのサインイン方法から、仮想インスタンスの管理方法（インスタンスタイプの変更 & ストレージの拡張含む）やバックアップからの復元方法についてなど、運用に必要な各種操作手順をキャプチャ画面で解説しております。

目次

1. 概要	4	11.4.3.1. ファイルの復旧(Windows)	119
1.1. 資料概要	4	11.4.3.2. ファイルの復旧(Linux)	126
1.2. 注意事項	4	11.5. EBS ボリュームの削除方法	129
1.3. 改定履歴	4	12. RDS の管理	130
2. 前提条件	5	12.1. RDS の起動方法	130
3. AWS マネジメントコンソールサインイン	6	12.2. RDS の停止方法	132
4. AWS マネジメントコンソールサインアウト	8	12.3. RDS の再起動方法	135
5. 別リージョンへの画面遷移方法	10	12.4. RDS の切り替え方法	137
6. 各 AWS サービスへの画面遷移方法	12	12.5. RDS の削除方法	139
7. IAM グループ作成・削除	14	12.6. RDS のログ参照方法	143
7.1. IAM グループ作成	14	12.6.1. RDS のコンソール画面から参照する	143
7.2. IAM グループ削除	17	12.6.2. ダウンロードして参照する	145
8. IAM ユーザー作成・削除・パスワード変更	19	12.6.3. CloudWatch から参照する	147
8.1. IAM ユーザー作成	19	12.7. RDS の設定変更	149
8.2. IAM ユーザー削除	26	12.7.1. DB インスタンスクラスの変更	149
8.3. IAM ユーザーパスワード変更	28	12.7.2. ストレージの容量拡張	152
9. AWS 管理ツールのインストール	30	12.7.3. ストレージタイプの変更	156
9.1. AWS CLI インストール	30	12.7.4. メンテナンス時間の変更	160
10. 仮想サーバーの管理	36	13. RDS のバックアップと復元	163
10.1. 仮想サーバーのログイン方法	36	13.1. バックアップの取得状況の確認方法	163
10.1.1. Windows サーバーのログイン方法	36	13.2. スナップショットを手動で取得する方法	164
10.1.2. Linux サーバーのログイン方法	38	13.3. RDS の復元方法	166
10.2. 仮想サーバーのログアウト方法	43	13.3.1. スナップショットからの復元方法(AWS Backup)	167
10.2.1. Windows サーバーからのログアウト方法	43	13.3.2. スナップショットからの復元方法(RDS コンソール)	173
10.2.2. Linux サーバーからのログアウト方法	48	13.3.3. 自動バックアップからの復元方法	178
10.3. 仮想サーバーの起動方法	49	14. EC2 の利用者の動作について	184
10.4. 仮想サーバーの停止方法	50	14.1. 監視機能の管理	185
10.5. 仮想サーバーの削除方法	51	14.1.1. 通知メールの見方	185
10.6. 仮想サーバーの設定変更	54	14.1.2. ステータスの確認方法	188
10.6.1. インスタンスタイプ変更(Windows)	54	14.1.3. 通知の無効化・有効化	191
10.6.2. インスタンスタイプ変更(Linux)	56	14.2. RDS によるイベント通知	196
10.6.3. EBS ボリュームの追加(Windows)	58	14.2.1. イベント通知メールの見方	196
10.6.4. EBS ボリュームの追加(Linux)	68	14.2.2. イベントの確認方法	197
10.6.5. EBS ボリュームの容量拡張(Windows)	75	14.2.3. イベント通知の無効化・有効化	199
10.6.6. EBS ボリュームの容量拡張(Linux)	81	14.2.4. イベント通知対象を変更する	203
10.7. 仮想サーバーのステータス確認方法	85	14.2.5. イベント通知のカテゴリを変更する	206
11. 仮想サーバーのバックアップと復元	87	14.3. 通知先の編集(変更、追加、削除)	209
11.1. バックアップの取得状況の確認方法	87	14.3.1. 通知先の変更	209
11.2. バックアップからの復元について	88	14.3.2. 通知先の追加	210
11.3. 仮想サーバーの復元方法	89	14.3.3. 通知先の削除	214
11.4. EBS ボリュームの復元方法	94	14.3.4. 承認確認メールの再発行	216
11.4.1. EBS ボリュームの復元(Windows)	94	15. トラブルシューティング	219
11.4.2. EBS ボリュームの復元(Linux)	106	15.1. AWS 稼働状況確認	219
11.4.3. EBS スナップショットからボリュームの作成(Windows/Linux 共通)	114	15.2. 技術サポート問い合わせ方法	220



AWS導入後の運用管理の不安を大幅に軽減！

サービスに関する注意事項 1 ※必ずお読みください

- **EC2について**
 - ・ 作業範囲はOSインストールまでとなります。OSの設定はお客様にて実施頂く必要がございます。
 - ・ パブリッククラウドの仮想マシンへの管理アクセスは、ご指定頂くグローバルIPアドレスからのみの接続を許可します。
- **RDSについて**
 - ・ 作業範囲はデータベースエンジンとサブネットグループまでとなります。パラメーターグループやオプショングループの設定はお客様にて実施頂く必要がございます。
 - ・ 設定内容は弊社指定の「設定シート」に記載頂いた内容のみとなります。
 - ・ Amazon RDS Custom と マルチAZ DBクラスターの構築は本サービスの対象外です。
 - ・ Oracle Management Agentのインストールや設定はサービス対象外です。
 - ・ MySQLはCloudwatchlogsへのログ出力を依頼される場合、パラメーター/オプショングループへ一部設定を行います。
- **監視と通知オプションについて**
 - ・ 通知は管理者様にメールにて行いますが、メールの通知には管理者様側で許諾の処理を頂く必要がございます。
- **サイト間VPNオプションについて**
 - ・ サイト間VPNでは、オフィス(既存環境)側のカスタマーゲートウェイに固定グローバルIPアドレスが必要となりますのでご注意ください。
- **ALBオプションとCloudFrontオプションについて**
 - ・ Webサイトのヘルスチェックを実行するため、構築期間中に販売店様にてWebサイトを構築頂く必要がございます。なおWebサイトの構築期間は2週間程度を想定しています。
 - ・ SSL/TLS証明書発行に際し、DNSへの設定追加が必要になります。設定値はご連絡致しますが、お客様にて設定頂く必要がございます。
 - ・ CloudFrontオプションは、ALBオプションと連携する為、ALBオプションの同時購入が必要です。
 - ・ メニューにて対応可能なユーザからALBへの通信プロトコルはhttpsのみです(httpのみの利用はサポートしません)。
 - ・ ALB振り分けルールは「負荷分散」、Webサイト数は「1サイト」とさせていただきます。
 - ・ Webサイトの動作確認および負荷分散試験はサービス対象外です。
- **EC2の自動起動停止オプションについて**
 - ・ 祝日や年末年始など考慮したスケジュールには対応できませんので、必要な際はお客様にて手動で停止と起動を実行ください。
 - ・ 監視と通知オプションにて実行結果を管理者へ通知する場合は、EventBridge Ruleのサービスの利用が必須です。



- **チャット通知オプションについて**
 - チャットサービスはMS Teamsとslackのみサポートします。
 - RDSの死活監視はチャット通知をサポートしません。
 - AWSからチャットサービス(MS Teams、slack)への通知が許可されている必要があります。
 - チャットサービス側の設定は対象外となり、設定に関するご質問は弊社では対応致しかねます。
- **WAF PoC オプションについて**
 - ALBもしくはCloudFrontに対してカウントモードのWAF環境を構築します。
 - ベースラインルールグループとIPレピュテーションルールグループをWEBサイト全体に適用します。
 - カウントモードからブロックモードへの設定変更やルールの追加や削除はお客様にて実施頂く必要があります。
 - 無償の操作手順書にて基本的なログの確認方法とブロック処理(指定のIPをブロック、指定のルールをブロック)、ルールの変更(追加、削除)方法を紹介しておりますが、操作手順書は弊社のAWS環境をベースとした操作手順の為、実際のお客様のAWS画面とは異なります。なお個別のカスタマイズを実施することはできません。
 - ログの分析やルールの最適化に関するご質問については対応致しかねますので予めご了承ください。
- **Patch Manager オプションについて**
 - パッチオペレーションは「スキャンとインストール」を設定します。「スキャン」のみの設定は致しかねます。
 - パッチポリシーは、AWSが事前定義したパッチベースラインにて作成します。「カスタムベースライン」の設定は致しかねます。
 - ダッシュボードの一部項目(Amazon EC2 インスタンス管理)が非表示となりますがご了承ください。※他AWSサービスの追加設定が必要となる為
 - 対象のEC2はインターネット接続が必須です。
 - アップデートファイルが提供されるタイミングによっては、構築時にインストール動作の確認がとれない場合がございますことを予めご了承ください。
- **メールサポートについて**
 - サポート範囲はAWS構築範囲となります。またお問い合わせの内容によってはメーカーへエスカレーションさせていただきます。その場合、ご回答までに数日掛かる場合がございます。
- **全てのお客様へのご注意事項**
 - バックアップからの復元方法は操作手順書をご提示いたしますので本番運用前にテストを実施ください。



● カスタマーゲートウェイサービスオプションについて

● 対象機器について

Cisco Meraki MXシリーズ、Cisco ASA5500シリーズ、Fortinet FortiGate 40+ シリーズ、Yamaha RTX ルーター
※記載のない機種はサービス対象外となります。また、AWSカスタマーゲートウェイ対応デバイス、バージョンでの作業とさせていただきます。
https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/vpn/latest/s2svpn/your-cgw.html

● 事前作業について

ご注文から現地納品スケジュールは目安として約 1 か月ですが、パラメータシート完成のスケジュールに依存します。
ヒアリングには、ネットワークのパラメータを決定できる方の参加が必要です。
事前ヒアリングは原則として1回、最大2時間程度のWeb会議を見込んでおります。
3rdパーティー製品との連携設定などは、範囲外とさせていただきます。(RADIUSサーバ等)
キッティングを実施後、出荷致します。
ルータはインターネット利用の用途を想定しております。
またWAN側の複数回線の冗長設定、ルータのHA構成、複数拠点の接続（サイト間VPN）が必要な場合は別途ご相談ください。

● 現地作業について

現地対応時間は平日（月曜～金曜）9:00-17:00とし、日時は別途調整可能なことと致します。（ただし、祝日および弊社の定める休日を除く。）
対応地域は、全国（県庁所在地から50km以内とする）、50km以上の場合は住所確認後に差額の交通費・諸経費を加味したお見積りをご提示致します。
お客様先へ弊社SEが1名訪問します。
AWS側のVPNステータスがオンラインであることの確認までとさせていただきます。

● 導入後対応について

メールサポートはメールでのベストエフォート対応とさせていただきます。
メーカーサポートが利用できる保守に加入されていることが前提となります（メールサポート開始までにサポート窓口が利用できること）。
環境引き継ぎ会は原則として1回、最大2時間程度のWeb会議を見込んでおります。

● その他

お客様都合によりスケジュールに遅延が起こった場合、納品日時についてのご要望にお応えできない場合がございます。
納品物はキッティングの際に実施した試験内容の試験計画書兼報告書と設定値をまとめたパラメータシートとさせていただきます。



前提条件 ※必ずお読みください

- 本サービスはDISのAWSサービス契約を締結しているお客様が対象です。
- AWS環境を新規に構築する際にご利用頂くことが可能です。
- 本サービス以外の追加要件(構築やドキュメントの追加)に関しましては対応致しかねます。
- オプションメニュー単体での購入はできません。基本セットとの同時購入が必須です。
- 事前打ち合わせおよび設定作業は平日日中帯(すべてリモートにて実施)を前提としております。
- サイト間VPN設定につきましてはAWS側の設定までが弊社作業範囲となります。カスタマーゲートウェイ側のサイト間VPN設定方法などについてのご質問は対応できかねます事をご了承下さい。
- 既存環境からのデータ移行作業やOS以上の設定はメニューの範囲外となり、ご対応できかねます事をご了承下さい。
- 作業期間中にAWS側の機能拡張/設定パラメータ変更などが発生する可能性も御座います。
- AWS側のサービス障害などにより弊社側作業の実施が難しい状況が起きた場合は、各種スケジュールを変更させて頂く可能性も御座います事をご了承下さい。
- 納品フェーズの環境引継ぎ会 (リモート1時間程度)実施後の2週間をフォロー期間としてメールでのお問い合わせに対応いたします(平日 9時～17時のベストエフォート対応)。
- フォロー期間におけるメール対応は、本サービスの構築範囲に限定いたします。
- フォロー期間以降のAWSに関する技術的なご相談やトラブルはメーカー窓口 (AWS技術サポート) にお問い合わせください。

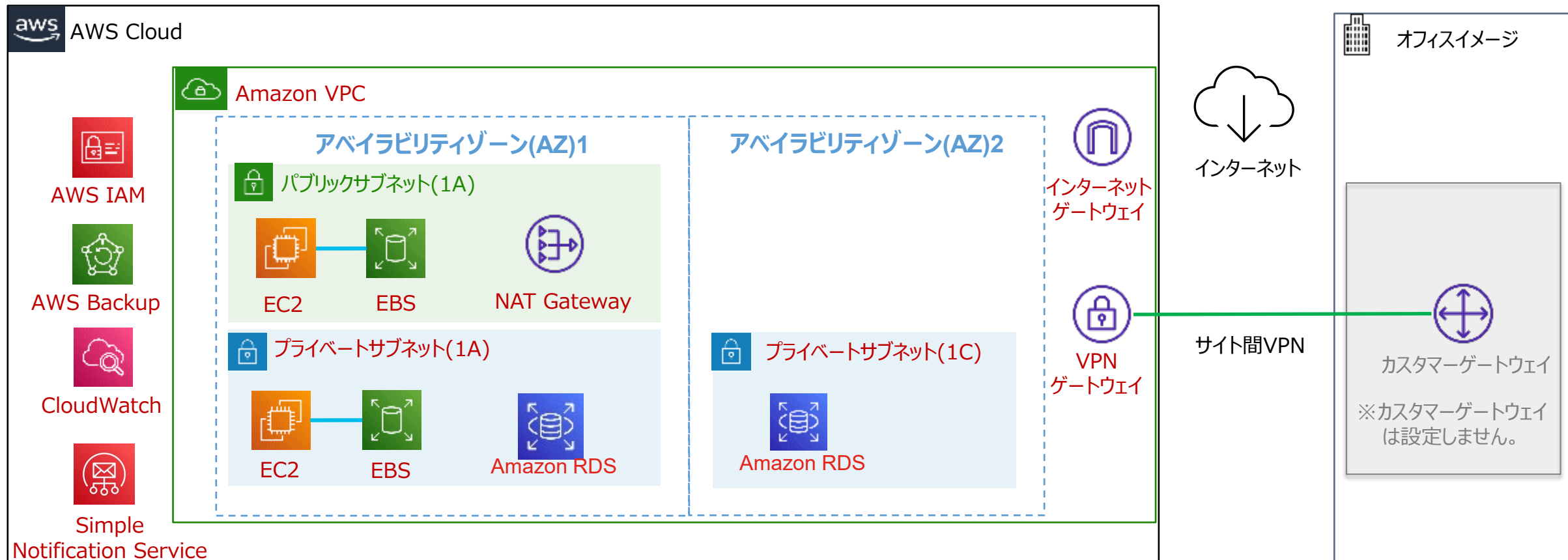


AWSスタータートレーニングについて

AWSスタータートレーニングとは？

- スターターパックをご利用頂いた販売店様にSE向けのトレーニング資料をご提供致します。
- 基本的なAWSサービスの構築スキルを身に着ける為のコンテンツです。
- 自習用コンテンツため、いつでもどこからでもご受講頂けます。

ハンズオンで構築するAWSアーキテクチャ



- 合計300スライドを超える自習用のコンテンツです。
- マネジメントコンソールの使い方から、アカウント作成、ネットワーク、仮想サーバ、バックアップ、監視、VPN、データベースの構築といった一般的なサービスを網羅しています。
- AWSに馴染みの無い方をターゲットとした各種AWSサービスの紹介スライドの後に、設定手順を詳細に説明したハンズオンスライドが続きます。

目次
1. マネジメントコンソールの使い方
2. AWSのアカウントを作ってみよう
3. ネットワークを作ってみよう
4. 仮想サーバを作ってみよう
5. バックアップを設定してみよう
6. 監視の仕組みを作ってみよう
7. サイト間VPNを設定してみよう
8. データベース (RDS) を作ってみよう
9. その他 (ご参考資料)

NATゲートウェイについて

- インターネットにアクセスはしたいが、インターネットからアクセスされたくない(インターネットに公開したくない)場合は、NATゲートウェイを利用します。
- プライベートサブネット内のリソース(図では仮想サーバ)は、プライベートIPアドレスを利用するため、インターネットからアクセスされることはありませんが、NATゲートウェイを利用することで自身のアップデートなどの目的でインターネットにアクセスすることができます。
- NATゲートウェイはパブリックサブネットに配置します。



ハンズオン33 RDSの作成 1/12

Step 1. AWSマネジメントコンソールの検索ボックスに「rds」と入力後、表示された「RDS」サービスを押下します。



Step 2. RDSのコンソール画面、左ペインより「データベース」を押下します。



All contents are Copyright(C)2022 DIS Service & Solution Co.,LTD. All rights reserved. DIS Service & Solution Co.,Ltd 297

- 設計や設定時に必要なポイントを紹介しています。※スライドの図は一部です。

ハンズオン3 VPCの作成 (ご参考)

リージョン毎に作成できるVPCの数は、デフォルトで「5つ」に制限されています。そのため、上限数を越えるVPCを作成しようとする、以下のようにエラーが発生します。

VPC作成時にエラーメッセージが出たときの対処法

なお、このままハンズオンを進める場合は暫定対処としてStep 1.に戻り、

ハンズオン30 VPN接続の作成 (ご参考)

以下の方法にて、VPN接続するカスタマーゲートウェイ用デバイスの設定ファイルをダウンロードすることができます。
※CiscoSystems社やYamaha社など主要なメーカーのデバイスがサポートされています。

Step 1. 左ペインの「サイト間のVPN接続」にて、使用するVPN接続が選択されている状態で、左上の「設定のダウンロード」を押下します。

Step 2. カスタマーゲートウェイ用デバイスの設定ファイルを選択し、設定をダウンロードすることになります。

VPNルータのサンプルコンフィグのダウンロード方法

【ご参考】RDSのバックアップについて

- RDSには「自動バックアップ」と、手動で採取する「スナップショット」の2種類が存在します。
- 「自動バックアップ」はデフォルトで有効となっており、特定時点へ復元することができます。(ポイントインタイムリカバリー)
- 「自動バックアップ」の保持期間には期限があります。(最長35日間) そのため、自動バックアップと併用してスナップショットによる定期的なバックアップをお勧めします。
- 「スナップショット」はバックアップを採取した時点でのイメージに復元することができます。
- 「スナップショット」は、AWS Backupによるスケジュールバックアップが可能です。

2種類のバックアップの違いと用途について

	自動バックアップとスナップショット	スナップショット
バックアップ時間	常時オン (5分間隔でトランザクションログを採取)	実行した時間
復元ポイント	保持期間内の任意の時刻 (特定時点)	バックアップを実行した時刻
保持期間	最長35日 (デフォルトで7日間)	無期限
設定方法	RDS作成時に設定 (デフォルトで有効。) 別途変更可能。	手動で毎回実行 (AWS Backupによる定期実行も可能。)

DIS Service & Solution Co.,Ltd
321

AWS RDSについて

- RDSはシングルAZ配置、マルチAZ配置が選択できます。
- シングルAZ配置でもマルチAZの環境が必要です。
- マルチAZ配置では本番系 (マスター)、待機系 (スレーブ) 間のデータ同期は自動で行われ、障害発生時には自動でフェイルオーバーされます。

シングルAZ配置

マルチAZ配置

シングルAZ配置でもマルチAZが必須な構成について

障害発生時には自動でフェイルオーバー

VPC内のDBインスタンスの使用
https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/AmazonRDS/latest/UserGuide/USER_VPC.WorkingWithRDSInstanceinaVPC.html

DIS Service & Solution Co.,Ltd
280

- トレーニングコンテンツ(資料)の提供は無償です。
- ハンズオンでは販売店様のAWSアカウントを利用する為、ハンズオンで構築したAWS環境の料金は、DISより別途ご請求させていただきます。※トレーニング後に不要なサービスは削除ください。
- 不明点については、AWS環境の引継ぎ会以降の2週間、弊社のエンジニアがメールサポートを提供します。

トレーニングに必要なもの



AWSログインアカウント情報
※販売店様にてご準備ください

弊社からトレーニング用のアカウント提供はありません

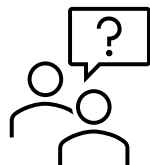


設定用のPC



インターネットアクセス環境

メールサポートについて



機能や設定に関するご質問



2週間のメール問合せ
平日 9時～17時のベストエフォート対応



エンジニアによるメールサポート



DIS Service & Solution Co., Ltd.